

も本書に論述する所の現狀を基礎を以て Organic growth をなすべきものなるを云へるは至言を稱すべし (Preface IX) 但し本書が引用資料、參考書目を全然掲げ居らざるは一般向の著述なりとするも稍不親切の感なき能はざるなり。

●Montagne Fordham: A short History

of English Rural Life, From the Anglo-Saxon Invasion to the Present Time, (London, 1916)

本書はアングロ・サクソン時代より現代に至る、英國の農村生活及農業界の沿革を簡明に叙説せるものにして、該國に於ける農民階級の歴史、農政上の主要なる問題を知らるの便利なる著述なり。本書を通覽すれば中世の村落生活 Manor の性質、農民の境況、中世晩期に於ける新氣運、農界の革命、農民暴動より、スチュアート時代の状態、十八世紀代の社會的變動、續いて十九世紀に於ける農民問題、現時に於ける地方の革新的氣運に至る迄、能く推移變遷の大意を合點し得らるゝなり。卷末に農政上及これに關係ある諸法令を分類列舉し且つ其要旨を附記せるは至便と云ふべし。但し本書は何等の創見新研究を含める著作にはあらずして、只權威ある諸學者の著述を參考して簡便器用に編述せる所に其價値は存するなり。〔以上植村〕

●H. A. Mills The Japanese Problem in the United States, New York 1915.

本書は、米國に於ける基督教會の提言によりて The Commission on Relations with Japan が太平洋岸に於ける日本移民の狀態を調査せしむるために派遣したるカンサス大學のミツリス教授の調査報告にしてカリフォルニア州を始めとし其附近太平洋岸の各地方に於ける日本移住民について明治十七八年頃よりの歴史、其分布、職業、生活狀態、土地法等を記せしものなり。其歐米人の眼に映じたる日本人の性格、同化問題に就ての著者の見解を述べたるところは國民性の了解上吾人に裨益するところあるを覺ゆ。〔西田〕

●Warne, F. T. The Tide of Immigration  
New York 1916, ¥ 5.00

亞米利加の歴史は移入民の歴史ともいはるゝ程にて、之が亞米利加上如何に多くの分け前を有するかは、喋々を要せざる所、而も移入民は常に史上の事實に止まらず、現在も亦之を離れて其國情を察するに苦む。特に富源豊かにして移入民を誘致する事最も大なる合衆國に於て、此感を深くせざるを得ず。其最近十年間に於ける年平均の移入民が、百二十萬人を算せるを見れば、其數に於ては我が大阪市人口に近き人口が、年々増加せる譯なり、一四四年の如きは、歐洲戰亂の影響を蒙りて、其數一千三百五十萬を計上せらる。此盛況を以てしても、尙一九〇七年のそれに及ばず